

Contents

■ 活動報告&Information

本学がくるみん認定を取得
学内保育所利用意向調査結果公表
高山サイエンスフェスティバル親子スペース設置
VOC2021女子学生向け相談会を実施

■ インタビュー

スタートアップ研究費を受給して vol.14 (藤間 准教授)
スタートアップ研究費を受給して vol.15 (久保田 助教)
スタートアップ研究費を受給して vol.16 (Chen 助教)

■ Information

AA制度と役務委託費助成、育休取得者に申請資格付与
主催イベントの託児費用はすべて大学負担に
WLB相談 メールor申請フォームからのみ受付
付属図書館のジェンダー関連図書をご利用ください
各種支援の申請・ダウンロードページのご案内

活動報告

2020年8月～2021年3月

活動報告 2020年10月21日

本学がくるみん認定を取得

奈良労働局から次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主に認定され「子育てサポート企業」であることを示す「くるみん」認定(2020年10月21日付、1回目)を取得しました。くるみん認定を受けるメリットには、国等における一部の研究開発事業の選考審査における加算点の付与などがあります。



認定通知書交付式の様子はこちら

https://www.naist.jp/gender/contents/log/news/post_183.html

本学教職員向け学内ページはこちら

<https://www.naist.jp/gender/contents/gender/kurumin/>

活動報告 2020年9月8日

学内保育所利用意向調査結果公表

全教職員678名(男性372、女性306)を対象に「企業主導型保育事業を利用した学内保育所設置に関する利用意向調査」(2020年8月21日～31日、回収率33.3%)を実施しました。「学内保育所が開所されたら利用したい/利用する可能性がある」と回答したのは、33.6%(76名、内訳:利用したい16.4%(37名)、利用する可能性がある17.3%(39名))でした。特に20代の教職員の9割が「利用したい/利用する可能性がある」と回答するなど、将来子どもをもつ可能性のある教職員にとって学内保育施設の設置へのニーズが高いことが明らかとなりました。また、管理職者からも、保育所の設置は両立に苦労している若手の職場環境改善のみならず優秀な人材確保につながり、ひいては大学の発展につながるといった肯定的な意見が多数寄せられました。

調査結果はこちら

<https://www.naist.jp/gender/pdf/2020gakunaichousa.pdf>

活動報告 2020年11月15日

高山サイエンスフェスティバル 親子スペース設置

地域向けオープンキャンパスでは5年目の取り組みとなる、親子スペース(授乳・おむつ替え)を大学会館1階に設置しました。また、各研究領域棟1階やミレニアムホール等の各トイレ内にベビーチェアやベビシート案内版を設置しました。



活動報告 2021年2月20日

バーチャルオープンキャンパス2021にて 女子学生相談会を実施

バーチャルオープンキャンパス2021のライブイベントとして女子学生向けの相談会を行いました。総合窓口5名、領域別の相談会に7名の方に参加いただき、ご質問等に本学教員と学生が応えました。

当日のプログラムはこちら

<https://opencampus-mgmt.naist.jp/2021/>



Interview

インタビュー

子育てと仕事を両立するために利用できる制度や円滑に研究を立ち上げるための助成を利用した方々へのインタビューです。

vol.14

スタートアップ研究費を受給して

物質創成科学領域 分子複合系科学研究室(上久保研)

藤間 祥子 准教授

新しい結果を出すことができた

着任前は本制度のことは全く知りませんでした。本学に着任してから男女共同参画室から連絡があり「助かるな」と思った記憶があります。当時、前所属でやってきたことで最後までやり遂げたいことと、本学に着任してから立ち上げた共同研究がありました。本研究費があったことで、新たに立ち上げた研究をより主体的に進めていける環境を整えることができました。何か研究を始めようとすると研究費が必要ですが、私は割と同世代の方と共同研究をしているため、みんな大御所ではなく予算も潤沢ではありません。少額あればこういう実験ができるという場面でこの予算を使えたので、スムーズに研究を立ち上げることができました。2年間で、既存の研究テーマの継続だけでなく、新しい結果を出すこともできましたので、これをベースに来年度以降の研究費の予算申請をすることができました。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.21もチェック!

本研究費の具体的な使い道ですが、研究の遂行に必要な装置の購入や、測定試料の宅配費などに使わせてもらいました。宅配では、データの測定のためにつくばやSpring-8などの大型放射光施設に試料を送りました。これは子どもが小さいころから使っている方法なのですが、つくばで実験をして夜中や早朝に帰ってくるとか、次の日運動会で朝弁当つくってとか体力的に無理なので、試料を送ってしまったほうが負担が少ない。もともとは自分が現地に行って半日とか徹夜で実験するのが主流だったのですが、測定の自動化が進んでいて、私はかなり初期のころから自動解析を使っています。最近では実験の進捗や結果をweb上で確認できるようになりました。子どものケアとの両立のために効率を追い求めてたどり着いた「測定試料を送ってしまう」方法を今回の助成期間も活用しました。

vol.15

スタートアップ研究費を受給して

バイオサイエンス領域 植物生理学研究室(遠藤研)

久保田 茜 助教

3倍速で実験を進めることができた

本制度のことは着任前には知りませんでした。遠藤先生から研究助成のお話自体は何っていましたが、詳しいことはわからないまま「申請したらいいよ」とだけ聞いていて、同じくらいのタイミングで男女共同参画室から詳細の連絡を頂いたことを覚えています。

本研究費にはまとまった額があったので、植物育成用の人工気象機や光源装置を購入することができました。消耗品はラボにあるものを共用できるのですが、自分の実験に必要な育成棚や光源装置は自分で買うしかないので、本研究費を使って以前の所属先でセットアップしたものをここでも一から揃えることができました。





私は概日時計が関与する生理応答に興味があって、様々な条件で24時間のサンプリングを行って遺伝子やタンパク質の24時間での発現変動を解析するのですが、チャンバー数が不足すると徹夜が続くうえに、実験全体が滞ってしまいます。私は本研究費で最初にチャンバーを3台購入することができ、文字通り3倍速で実験を進めることができたのでものすごく助かりました。金額が50万とかではなく200万あり、使用用途も限定されていなかったことも非常にありがたかったです。

WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.22もチェック!

vol.16

スタートアップ研究費を受給して

情報科学領域 ネットワークシステム学研究室(岡田研)

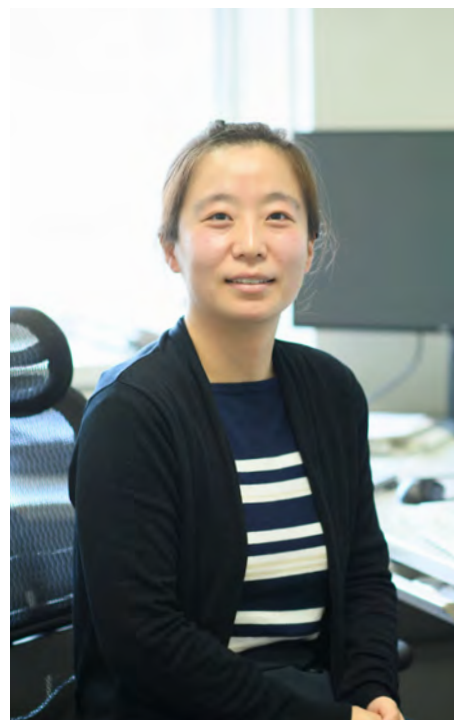
Chen Na 助教

助成期間については考慮を

着任前から本制度について知っていたわけではありませんでした。本学に着任してから男女共同参画室から連絡があり、ある種のサプライズでした。

本研究費はシミュレーションソフトウェアの購入や、国際会議の旅費として使いました。研究の立ち上げには資金が必要ですが、政府や企業の助成金を得るのは簡単なことではありません。申請には書類手続きもありますし、受付までにも一定のコミュニケーションが必要です。ですから、着任すぐの時期に助成金をいただいたのは、助けになりました。

さらに言うと、私の研究に欠かせないシミュレーションソフトウェアは大変高価です。本学にはMATLAB、数学などのソフトウェアがすでに整備されており、これらも役に立っていますが、自分自身の研究テーマのためにはこのソフトウェアの方がベターなのです。ですからこれをスタートアップ研究費で購入できたことはありがたかったです。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.23もチェック!

過去の本研究費の受給者も指摘していましたが、助成期間については考慮がいます。着任して間もない時期は職場にも慣れていないし、予算をどのように使えるのかも機関によって異なるため戸惑いがあります。たとえば着任すぐの3ヶ月間あるいは6ヶ月間は場所に慣れるための期間と位置付け、着任してから数ヶ月後に助成期間をスタートさせられるようなオプションがあればもっと使いやすくなるのではないのでしょうか。

男女共同参画室WEBサイトで連載中

本学で活躍する研究者へのインタビュー

「それぞれの働き方」

<http://www.naist.jp/gender/contents/message/interview/>

Information

Info 1

2021年4月～

AA制度と役務委託費助成 育休取得者に申請資格付与

研究と生活の両立の実現を支援するため、アカデミックアシスタント配置と役務委託経費助成制度の申請資格に「育児休業中である者」を追加します。

https://www.naist.jp/gender/contents/support/academic_assistant/



2021年4月からの本助成制度の申請資格

本学と雇用関係のある裁量労働制の研究者(教員・特任教員・博士研究員等)であり、かつ以下のいずれかに該当する者

- ① 小学校3年生までの子どもを養育中である者、ただし配偶者が育児に専念できる者を除く
- ② 妊娠中または産前産後休業中である者(産前産後休業期間中はアシスタントの監督者を事前指名する必要がある)
- ③ 育児休業中である者(アシスタントの監督者を事前指名する必要がある)
- ④ その他、特に支援の必要があると部会長が認める者

Info 2

2021年4月～

主催イベントの 託児費用はすべて大学負担に

オープンキャンパスなど大学主催のイベント時には教職員・学生へ一時託児サービスを実施してきましたが、2021年4月より、研究科、各領域、その他の部局等主催イベントに設置する一時託児の経費も大学が負担します。託児場所の決定や利用者の募集、受付などについて事前に男女共同参画室まで相談ください。



https://www.naist.jp/gender/contents/support/kenkyu_child_care/

Info 3

2021年4月～

ワークライフバランス相談窓口の受付

メールor申請フォームからのみ受け付けます。
(来所による相談受付は停止します)

E-mail: wlb-soudan@ad.naist.jp

申請フォーム

<https://www.naist.jp/gender/contents/support/summary/wlb.html>



Info 4

ジェンダー関連図書

をご利用ください

付属図書館にベストセラー本や男性学に関する図書が配架されています。ぜひ手に取ってみてください。

図書リストはこちらから

https://www.naist.jp/gender/contents/gender/office_library/



Info 5

各種支援の 申請・ダウンロードページのご案内

男女共同参画室の提供する各種支援の申請フォーム等を下記に集約しました。

https://www.naist.jp/gender/contents/support/application_dl/

